池田龜鑑著

伊勢物語に就きての研究

東京　大岡山書店刊行

昭和八年九月十一日印刷
昭和八年九月十五日發行

定價金八圓

著者　池田龜鑑

發行者　八木重良
東京市麻布區笄町一七六番地

印刷者　白井赫太郎
東京市神田區錦町三ノ一七

精興社印行

發行
東京市麻布區笄町一七六
振替東京六四九五二番
大岡山書店

後盛に行はれ、現存諸本の大部分を占めてゐる所の定家本系統にして、しかも定家自筆本に還元せられ得べしと考へられる「天福二年正月廿日己巳申刻凌桑門之盲目連日風雪之中遂此書寫爲授鐘愛之孫女也同廿二日校了」の奥書ある天福本を選び、そのうち最も定家自筆本に近いと推定される三條西伯爵家藏傳定家筆本伊勢物語を假名本の底本として用ゐ、一方「寛永廿癸未歳九月吉日二條通鶴屋町澤田庄左衞門板行」の刊記ある本を以て眞名本の底本に充てた。

一　比校に用ゐたる諸本及びその略號

校合に用ゐた諸本はその數四十三種類より云へば定家本系統(更に天福本・武田本・流布本に三分する)古本系統・大島本系統・朱雀院塗籠本系統・眞名本系統の五系統七類に亙り、その中定家本以外の系統のものは現在までに調査し得た殆んど全部を採用した。これを書寫年代よりすれば、今日までに調査し得た鎌倉及び南北朝時代の古寫本の全部、室町時代古寫本の大部分、及び江戸時代の寫本・刊本の重要なものは悉く之を網羅した。右の中古寫本に於ては、容本でもこれを採用したが、斷簡として諸家に存するものや、他書に引用されてゐるもの、及び所在は明かでも校合未了のものはすべて之を省いた。然し大島本の卷末に附せられた皇太后宮越後本と小式部內侍本の數段は特に校合中に加へた。今本書に於て校合に用ゐた諸本とその略號とを左に示す。

天　天福本
冷　冷泉爲和筆本　宮內省圖書寮藏
玄　法橋玄津筆本　架藏
逍　逍遙院筆本　三條西伯爵家藏
實　三條西實隆筆本　同
三　三條西本　同
紹　紹巴本　同

東　東大國文學研究室本　東京帝國大學國文學研究室藏

色　色川本　靜嘉堂文庫藏

重　傳二條爲重筆本　三條西伯爵家藏

武

武田本

四　第四高等學校本　第四高等學校藏

岩　岩瀨文庫本　岩瀨文庫藏

宮　宮內省圖書寮本　宮內省圖書寮藏

尊　傳尊應准后筆本　三條西伯爵家藏

高　高野本　高野辰之博士藏

流

流布本

千　千葉本　千葉胤明氏藏

七　七海本　七海兵吉氏藏

飛　傳飛鳥井雅世筆本　宮內省圖書寮藏

山　山崎宗鑑筆本　架藏

明　傳明融筆本　倉野憲司氏藏

一　一條兼良本　架藏

隆　傳四條隆重筆本　七海兵吉氏藏

奈　奈良京物語　同

豐　豐原統秋筆本　架藏

片　片假名書入本　同

雅　傳飛鳥井雅俊筆本　同

古

古本

相　傳爲相筆本　七海兵吉氏藏

爲　傳慈鎭爲家兩筆本　須田竹次郎氏藏

良　傳良經筆本　守屋孝藏氏藏

承　承久本　七海兵吉氏藏

榮　傳飛鳥井榮雅書入本　架藏

慈　傳慈鎭筆本　靜嘉堂文庫藏

肖	傳肖柏筆本	宮內省圖書寮藏
最	最福寺本	最福寺藏
時	時賴本	最明寺藏
大	大島本	
大	大島本	大島雅太郎氏藏
神	神宮文庫本	神宮文庫藏
塗	朱雀院塗籠本	
不	不忍文庫本	大島雅太郎氏藏
群	群書類從本	架藏
丹	丹表紙本	同
眞	眞名本	
內	內閣文庫本	內閣文庫藏
桂	桂宮本	宮內省圖書寮藏
九	九條本	架藏

天	天明本	架藏

一　諸本に於ける章段の配列とその有無

伊勢物語は諸本によつて章段に出入があり、且その配列も種々異るを以て、本書の校本に於ては、底本にあつて諸本にない章段を各々その條下に此段ナシと記し、底本にない章段は「定家本に見えず」して他本に見ゆる章段」として、それぞれ別に巻末に掲げることとした。又諸本に於ける各段の配列順位は明かに示して置かなかつたが、この章段の有無や順位は、伊勢物語系統論上に重要なものであるから、別に「伊勢物語諸本章段對照表」として掲げることとした。

一　諸本に示されたる校異の取捨

天 ❷をこせて—おこせて**色**

流 ❶おとこ—女**千** ❷をこせて—おこせて**山** ❸をともせすなりにけれは—をともせすなりにけれは**千**—をともせさりけれは**七** ❹たのむには—男には**明** ❺みてなむ—なんみて**千**—みて**七**

古 ❶昔—むかしをとこ**最** おとこ—をとこ**相最** きこゆれはゝつかしきこえねはくるしと—ナシ**承** ❷をこせて—をこせたる**慈** ❸なりにけれは—なりけれは**最** 女—おほむな**最** ❹たのむには—おもふには**相最時** ❺みてなむ—みて**最** たへかたき心地しける—たえかたき心ちしける**爲時**—たえかねて**最** ❻とへは トエハ**時** おりにや—をりにや**爲最時**

大 ❷むさしあふみと—むさしあふみとのみ**大神** ❸をともせすなりにけれは—をともせさりけれは**神** ❹たのむには—思ふには**大神** ❺たへかたき心地しける—たえかたき心ちしけり**神** ❻むりにや—をりにや**大** ひとはしぬらん—人のしぬらむ**神**

塗 ❶おとこ—をとこ**不** はつかしきこえねは—はつしきこねは**不群丹** ❷むさしあふみと—むさしあふみとのみ**不群丹** をこせて—ナシ**不群丹** ❹たのむには—おもふには**不群丹** ❺みてなむ—みてをむな**不** たへかたき心地しける—たゑかたきこゝちしけり**不**—たへかたきこゝちしけり**群丹** ❻とへは とゑは**不** おりにや—をりにや**不**

昔武藏在男花洛有女之許爾聞禮者慙不聞苦與書而上表爾武藏鐙與書而遣而後不音成 1

爾計禮者從京女 2

武藏鐙然兼而思爾者不問毛頗志問毛愁師諸在乎見而何難堪心地爲計流 3

將問者言不問所恨武藏鐙如是節爾哉人者死覽 4

眞 ❶不聞苦—不聞者苦**內桂九** 上表爾—上表爾者**九** ❸難堪心地爲計流—難堪心地計流**天**

一四 むかしおとこみちのくにゝすゝろにゆきいたりにけりそこなる女京のひとはめつらかにやおほえけんせちにおもへる心なんありけるさてかの女 1 2 3

中〳〵に戀にしなすはくはこにそなるへかりけるたまのをはかりうたさへそひなひたりけるさすかにあはれとやおもひ 4 5

けんいきてねにけり夜ふかくいてにけれは女 6

夜もあけはきつにはめなてくたかけのまたきになきてせなをやりつるといへるにおとこ京へなんまかるとて 7

くりはらのあれはの松の人ならはみやこのつとにいさとい
はましをといへりけれはよろこほひておもひけらしとそいひ
をりける

天 ❺ひなひたりける—ひなひたり**重** ❾くりはらのあれはの—くりはらやあれはの**東**

武 ❺さすかにあはれ—さすかあはれ**高** ❾くりはらのあれはの—くりはらのあねはの**四岩尊高**

流 ❶そこなる—そこなりける**七** ❷京—ナシ**雅** ❻女—ナシ**豐** ❸おとこ京へ—男へ**七** ❾くりはらのあれは—くわはらのあれは**千**—くりはらのあねは**七飛山明一隆豐片雅** ❿よろこほひて—よろこひて**千**

古 ❶おとこ—をとこ**相** みちのくにゝ—みちのくにまて**最** すゝろに—すそろに**最** ゆきいたりにけり—ゆきたりにけり**慈**—ゆきいたりぬ**最** ❷おほえけん—おもほえけむ**相爲承**—ヲホエケム時 せちに—せつに**榮** おもへる心なん—ヲモエル時 ❸ありける—しける**最** ❹くはこ—くわ子**最** たまのを—玉のお**榮** ❺うたさへ—歌さえ**最時** さすかに—かすかに**慈** ❻いきてねにけり—ゆきてねにけり**榮** いてにけれは女—いてにけれはおんな**爲**—いてけれは**最** ❽といへるに—トイエルニ時 おとこ—をとこ**相最** ❾くりはらのあれはの—くりはらやあれはの**承**—くり原のあねはの**榮慈肯時**—くりはらやあねはの**最** いはましを—いわましを**最** ❿よろこほひて—よろこほひて(ひ朱)て**承**—よろこひさへ**肯**—よろほひて**最**—ヨロコヒテ時 いひをりける—いひおりける**爲**—いひをくりける**承**

大 ❶みちのくにゝ—みちのくにへ**大** すゝろに—そそろに**神** ゆきいたりにけり—いたりにけり**大神** ❷京のひとは—京ひとをは**大神** おほえけん—思ひけん**大神** おもへる心なん—おもへりける心**大** ❹くはこ—くはく**神** そ—一字分不明**大** なるへかりける—なるへかりけり**大** ❸といへるに—といへりける**大**—といへるを**神** おとこ—をとこ**大** ❾くりはらのあれはの—くりはらのあねはの**大**—くりはらのあねの**神** いはましを—いはまし物を**大** ❿よろこほひて—よろこひて**大神** いひをりける—いひける**大**—いひたりける**神**

釜 ❶ゆきいたりにけり—いたりにけり**不群丹** ❷京のひとは—京の人をは**不群丹** めつらかにや—めつらやかにか**不群丹** おほえけん—おもひけん**不群丹** おもへる心なん—おもゑるけしきなむ**不**—おもへるけしきなん**群丹** ❸ありける—みへける**不**—みえける**群丹** かの女—をむな**不** ❺ひなひたりける—ひかめりける**不群丹** ❸といへるに—といひける**不**—といひけり**群丹** ❾くりはらのあれはの—くりはらのあねはの**不群丹** いはましを—いはまし**不群丹** ❿よろこほひて—よろこひて**不群丹** おもひけらし—思けりノ**不群丹** いひをりける—いひける**不群丹**

昔男在計利至二津國蘆爾到爾計利爾所有女王城之人乎波曰頗賀爾哉將念切爾思惠流心何在計流然彼女
永々爾戀爾不死者桑子社成有可計流玉之緒計歌副社鶺鴒有計流然爾憐與哉將所念
往而寢爾計利三更出計禮者女

四方開者木豆爾爲食久宅寫来爾鳴而背乎取遣諾云流乎夫京何往與而
栗原廼姉波乃松之人有宮子之裏爾率與云倍諾云利計禮者悦而思計維師常社云居計
流

眞 ❶將念—將所念**內桂九** ❹寐爾計利—寐爾計利**內桂九天** ❻率與云倍—率與云信**天**

一云 むかしみちのくにゝてなてうことなき人のめにかよひけるに
あやしうさやうにてあるへき女ともあらすみえけれは
しのふ山しのひてかよふ道も哉人の心のおくもみるへく女
かきりなくめてたしとおもへとさるさかなきえひすこゝろを
みてはいかゝはせんは

流 ❶みちのくにゝてみちのくにゝ**山片** ❷あやしう—あやしふ**片** さやうにて—さやにて**七** ❹めてたし—めてし**明** ❺いかゝはせんは—いかゝはせむは**一**

古 ❶むかし—昔男**相肯** みちのくにゝて—陸奥にて**榮** なてう—なてふ**榮時**—なむてう**最** め—むすめ**最時** かよひけるに—かたらひ(かよひ)けるに**最** ❷さやうにて—さやうにも**肯** 女とも—女にても**肯**—女ニモ**時** あらすみえけれは—あらさりけれは**肯** ❸おく—をく**慈最** みるへく—みるへき**慈** ❹おもへと—おもへとも**最**—思エト**時** ❺いかゝはせんは—いかゝはせむ**肯**—いかゝせむ**最時**

大 ❶みちのくにゝて—みつのくにゝにて**神** なてう—なてふ**大** ❷さやうにて—さやうにても**神** 女とも—女には**大**—をむな**神** あらすみえけれは—あらすみへけれは**神** ❸おく—をく**大** ❹おもへと—思へとも**大**—おもひて**神**—さかなき—さかき**神** えひすこゝろをみては—えひすこゝろもちては**大神** ❺いかゝはせんは—いかゝせん**大**—いかゝはせむ**神**

塗 ❶みちのくにゝて—男みちのくにへいきありきけるに**不**—男みちの國へありきけるに**群丹** め—むすめ**不群丹** ❷あやしう—あやしく**不群丹** 女とも—をんなには**不群丹** あらすみえけれは—あらすみえけれは**不** ❸おく—をく**不** ❹えひすこゝろをみては—えひす所にて**不**—えひす所にては**群丹** ❺いかゝはせんは—いかゝはせむ**不群丹**

昔男在計利至三津國名云言無人之妻爾通計留爾斟然様爾而可有女爾而毛不有計禮者 1
信夫山偲而通路毛哉人廼心之奥毛可見女無限日出與雖思然恐夷心乎見而如何詮 2

眞 ❶不有計禮者—不有者**內桂九天** ❷奥毛可見—奥毛可覽**內桂九**—奥毛可覽(見)**天**